



《参加者募集》

鼻高公民館&鼻高こども園 連携事業

おかあさんといっしょ チャイルド広場

入園前の幼児とその親等を対象に、歌や遊び・読み聞かせなどを通して親子でふれあう時間を持ちます。育児の悩みや解決法なども話し合い、子育てを共有します。



【期日】6月17日・24日、7月1日・8日、毎週水曜日、全4回

【時間】午前10時～正午

【場所】鼻高公民館・2階講義室、1階実習室

【対象】就園前の子どもの保護者など（お父さん、祖父母も歓迎）、10組程度

【費用】無料

【服装及び持ち物】動きやすい服装、オムツ替え用の敷物（バスタオル等）、水分補給の飲み物、大人は上履き持参（スリッパ不可）

【講師】鼻高こども園保育士・栄養士

【申込み】6月1日（月）午前9時から鼻高公民館（TEL322・9100）、又は鼻高こども園（TEL322・5255）で受付

回	期日	内容
1	6/17	楽しく手遊び・からだ遊び
2	6/24	楽しく作って遊ぼう、おもちゃ作り
3	7/1	楽しく歌っておどろう など
4	7/8	栄養士による乳幼児向け調理デモンストレーション

【主催】高崎市鼻高公民館
【協力】鼻高こども園

《参加者募集》

第10回 鼻高学講座開催！！

「鼻高の歴史 その魅力を知ろう」

鼻高の現状とその歴史を知り、今後を考える地域住民から聴き取りして作成した報告書を皆で読み、解説を受けたり、合併直前の旧碓氷郡八幡村の「八幡村誌」を読み、座談会のような雰囲気で行います。



【期日】6月26日、7月3日・10日、毎週金曜日、全3回

【時間】午前10時～正午

【場所】鼻高公民館・2階講義室

【学習内容】①鼻高の歴史と民族について ②合併直前の「八幡村誌」を読み、地域の歴史を考える。

【対象】一般成人、20人程度

【費用】無料

【持ち物】筆記用具

【講師】鼻高町第二区区長 飯沼直樹さん

【申し込み】6月1日（月）、午前9時から鼻高公民館で受け付けます。（TEL322・9100）

【主催】高崎市鼻高公民館
【共催】鼻高小学校区生涯学習推進員

《事業報告》

乗附町の史跡散策 5月15日（金）



家隆神社の解説を聞く参加者の皆さん

鼻高周辺の歴史や文化に触れ、自分たちの住む鼻高をもう一度再確認する恒例の講座です。今回は隣り町の乗附町を講師と一緒に訪ねました。知らなかった史跡なども多く残る乗附町は普段見過ごして通り過ぎていたことにびっくり。有意義な一日でした。



鼻高の四季

II 写真で綴る鼻高の宝 ④

箕輪城攻防戦その3 II

箕輪城攻防戦

関東管領上杉憲政が平井を放棄し越後に逃れてから西上州の様子は、箕輪城の長野業政がその首將的存在となり、自分の娘を倉賀野・和田・小幡・藤田・安中・白倉・甘尾・後閑などの城主や諸將に嫁がせ武力集団となっていたのでした。

武田晴信(信玄)は、川中島での越後軍との戦が決着しないまま今度は上州へも

その触手を伸ばし始めました。

弘治3年(1557)甲斐武田軍が余地峠(下仁田)を越えて妙義山の東麓の瓶尻原(みかじり原)に進出し、箕輪の長野勢との初めての攻防戦に及んだのでした。長野業政軍はこの時は退けたのですが、戦場で初めて見た鉄砲という武器の威力に驚嘆したとのこと。

長野勢は、武田軍300丁という鉄砲の威力に総崩れと

なり箕輪城近くまで撤退を強いられとのですが、この時はかろうじて武田軍を撃退することができたそうです。

永禄2年(1559)になると、武田軍が再び上州に進攻します。甲軍は12000の軍勢で上信越国境を越えて松井田・安中一带を戦場としました。

武田軍は作毛破りという戦法で田畑を荒らしまわりましたが、この時も長野業政が健在で若田ヶ原に於ける地の利を生かした戦法で武田軍に打撃を与え退けたとのこと。

桶狭間の戦いと

小田原城包囲作戦

永禄3年(1560)に日本の歴史上一大事件が起りました。駿河の雄であった今川義元が桶狭間の戦いで討ち死にしたのでした。この機を逃さず越後の長尾政虎は、関東管領上杉憲政を奉じて関東へ出兵したのでした。

越後軍8000の軍勢で三野業政が享年72歳で没する国峠を越えて沼田を落とし、前橋(厩橋)を本拠地として関東布武の本拠地としたのでした。

翌永禄4年(1561)長尾政虎は関東管領の名のもとと関東一円の諸將に檄を飛ばし武蔵・常陸・下野・上野の連合軍10万を超える軍勢で小田原城を包囲したのでした。しかし、小田原城の堅塁を抜くことができず、越後へ帰ることになったのでした。向ヶ本格的に侵攻し始めた

長尾政虎は、その帰路、鶴岡八幡宮において正式に関東管領の位を上杉憲政から譲り受け、以後関東管領上杉政虎と名乗るのでした。



乗附町普濟寺にある上杉憲政公の墓所供養碑

この年に箕輪にとって一大事がありました。自領自衛論を唱えていた箕輪城主長

城を本拠地として上州の諸將に攻勢をかけ、まず和田城を服従させたのでした。

永禄8年になると武田軍の上州侵攻が本格化し倉賀野城を抜き西上州南部の城砦をほとんど服従させ、最後に残った松井田と安中も落

(次号に続く)